

令和7年度 福岡高等学校アクションプラン —1—

重点項目	学習活動（教科指導の充実）	
重点課題	教科指導の充実・教育力の向上と「主体的に学習に取り組む態度」の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では「主体的に学習に取り組む態度」の養成に力を入れて取り組んできた。外部研修や互見授業に積極的に取り組み、教科指導力や教育力の向上に努めてきた。教員の教育に対する意識も向上している。 ・生徒の自主的学習習慣の定着を図るには、生徒の意識改革が必要不可欠である。指導と評価の一体化のために、入学から卒業までの3年間の取り組みを見直し、長期的な指導の計画と実践が必要である。 	
達成目標	① 学年評価において「主体的に学習に取り組む態度の評価がCとなる生徒の割合が5%未満」である科目の割合 90%以上	② 生徒の学習に対する満足度 自己評価シートの学年平均 2.9点以上/4点満点（72.5%）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や課題の取り組みに消極的な姿勢がみられる生徒に対して、教科面談を個別に行うなど指導を工夫し、学習意欲の向上を引き出す働きかけをする。 ・授業態度や課題提出状況などの目に見える成果のみでなく、目に見えない取り組みに対する評価も工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や課題等、学習への取り組み状況について、生徒の自己評価を実施する。 ・学習状況調査や自己評価集計をもとに個人面談を実施し、生徒の実態と学習や将来に対する意識を把握する。 ・3年間追跡調査を実施し、生徒の意識の変化を分析し、指導の改善につなげる。
達成度	① 5%未満の科目の割合 1学期 68.8% 2学期 58.6% 3学期 78.1% （1年100%、2年63%、3年84%） 昨年度学年末 94.7%	② 生徒の学習に対する満足度 自己評価シートの学年平均 ※（ ）は昨年度 1学年 3.1点/4点満点(2.9点) 2学年 3.0点/4点満点(2.9点) 3学年 3.2点/4点満点(3.2点)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は約70%の科目で「C評価」が5%未満であったが、2学期は約10ポイント減という結果になった。学年評価はまだ出ていないが、指導や評価に対する工夫ができていない現状がうかがえる。生徒の学習の満足度とのギャップも大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての学年において、昨年度よりもポイントが高くなった。特に1学年の満足度は例年よりも高く、学習に対しての充実感がうかがえる。校内テストの見直しなどにより、生徒自身にゆとりが生まれ、落ち着いて学習に取り組んでいる結果だと考える。
評 価	D	A
学校関係者の意見	<p>「主体的に学習に取り組む態度の評価」については、教科の得意・不得意の影響もあり、教科を同一基準で評価するというのは難しいのではないかと考える。教科ごとに評価することにすればどうか。生徒の主体性は、学習環境にも影響されると思うので、環境を整えることも大切だと思う。</p>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、新たな達成目標を設定したが、2学期終了時点では厳しい結果となっている。評価にCをつける責任を自覚し、その生徒に対しての指導の在り方を見直していく必要がある。Cの重みを考えると、5%の基準は厳しいものではないと考える。Cは指導者自身の評価でもあるという意識で、指導内容や評価基準を見直していく必要がある。 ・生徒の自己評価は、教科指導ではとらえきれない生徒の実態を把握する機会にもなっている。生徒の現状を理解し、生徒が意欲的に学習に取り組める環境を作るために、生徒の自己評価と教員の評価を比較し、指導や評価基準の見直しに役立てていく必要がある。 	

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）

令和7年度 福岡高等学校アクションプラン —2—

重点項目	学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）	
重点課題	基本的な生活習慣の確立と学校生活への適応	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・素直でおとなしい生徒が多く、平素からの挨拶が不得手な生徒が見られる。 ・自分の気持ちを表現することが苦手な生徒が見られる。 ・思春期における心の問題を抱えている生徒がいる。 ・普段の掃除に加えて、始業式・終業式の時には大掃除を、7月にはワックスがけを実施している。 	
達成目標	① さわやかに挨拶しようとした心がけた生徒の割合 90%以上	② 心の相談日や教育相談の実施 年間15回前後 ③ 特別清掃（大掃除やワックスがけ）の実施 年間7回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・自治委員による挨拶の働きかけ ・定期的（月1回）な挨拶・服装指導やさわやか運動などでの働きかけ（部活動生徒にも協力してもらう） ・教職員側からのさわやかな挨拶 ・生徒指導部、学年、保健厚生部が連携し、生徒の悩みや問題行動について早期発見と迅速な対応に協力して取り組む。 ・カウンセラーによるカウンセリングが必要な生徒を把握し、実施後には関係者と協議をする。カウンセラーによる講演会を実施する。 ・大掃除やワックスがけを実施し、生徒の学校美化意識を向上させる。 	
達 成 度	① さわやかに挨拶しようとした心がけた生徒の割合（よくできた・まあまあできたと回答した生徒の割合） 1年94%、2年96%、3年89% 全体93%	② 心の相談日や教育相談の実施 年間15回 ③ 特別清掃（大掃除やワックスがけ）の実施 年間8回（2/27、3/4含む。）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回（4月～11月）の挨拶・服装指導（正門・生徒玄関で生徒・職員合同で実施、部活動生徒も参加） ・6月の高校生さわやか運動でのあいさつ運動（生徒会・PTA合同で本校で実施、小・中学校と合同で小学校で実施）。あいさつ推進ポスター・横断幕の作成・掲示。 ・教職員側からのさわやかな挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上のカウンセリングの日を設け、スクールカウンセラー（SC）が悩みを持つ生徒と面談するとともに、必要な場合は、面談後に担任や学年主任を含めた個別指導会議や巡回指導員による面談を実施した。 ・入学式・卒業式の前日、保護者会や入試の前日などの節目には、大掃除や特別清掃を行い、普段は目の届かない場所を重点清掃項目として美化に取り組んだ。
評 価	A	A
学校関係者の意見	相手の顔を見て、はっきりとした声で挨拶することは大事である。PTAの方々や小学校の先生方から高い評価を得ているということは良いことである。	悩みを抱えた生徒は一定数いるということだが、学校として丁寧に対応していることで、生徒、保護者ともに、安心感を得られ、今後も、スクールカウンセラーと学校が一体となって取り組んでほしい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶に対する意識を向上させるためにも教員・生徒間で気持ちよく挨拶を交わせる雰囲気作りを目指したい。 ・部活動の生徒が参加し挨拶運動を展開し3年が経過した。次年度は、部長会議を数回実施し、部活動指導の1つとして挨拶の徹底や取り組みについて指導していく機会を増やしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の問題を抱える生徒が多くなっている。教職員が保護者やSC、医療機関と連携をして、「相談しやすい」環境づくりの充実に努めていきたい。 ・清掃は、概ね良好に行われている。大掃除やワックスがけを通して、教室の環境整備に努めさせるなど、美化意識をさらに高めるよう指導したい。 ・ゴミ箱等に不適切な物までも捨てられている。正しい分別の指導を徹底し、自己肯定感を高めたい。

令和7年度 福岡高等学校アクションプラン —3—

重点項目	進路支援（進路目標の設定とその実現）	
重点課題	進路意識の高揚と、納得のいく進路選択の実現、新課程入試への適切な対応	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力・適性に対する認識が十分でないため、将来の自分のあり方に対して、主体的に考えることができない生徒がいる。 ・学期や学年の進行とともに進路意識を高められる指導と、新課程入試に臨む3年生には受験に向けた適切な支援を行う必要がある。 	
達成目標	① 進路講話などによる進路意識の向上 校内での進路講話等 各学年年間2回以上	② 受験への取り組みに対する満足度 (卒業時：3年生対象) 満足：60%以上 不満：10%未満
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生に対し『職業人が語る会』を実施し、自己の将来について主体的に考える姿勢を伸長させる。 ・2・3年生に対し、本校を卒業した現役大学生による進路ガイダンスや外部講師による進路講話を実施することにより、具体的な進路目標を持たせ、主体的に学習する態度を育成する。 ・3月に、卒業した3年生が2年生に講話を行うことで、具体的な進路意識と学習意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面接を通して生徒の進路希望を十分に把握し、受験校の選定や学習に対する助言・支援を行う。 ・新課程入試に関する新しい情報をいち早く正確に生徒に伝達する。 ・入試動向や校内テスト・外部模試の分析結果を、学年会や進路検討会等で情報を共有し、面接や教科指導等に生かす。 ・教科や小論文の添削、面接指導等の個別指導を、全校体制で計画的に実施する。
達 成 度	① 1学年 3回（3月に+1回予定） 2学年 4回（3月に+1回予定） 3学年 2回	② 満足（満足19.5%、やや満足22.1%）計41.6% 不満（不満3.5%、やや不満17.7%）計21.2%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は6月に金沢大学見学、8月末に職業人が語る会、9月に外部講師の進路講話の3回実施。3月に富山大学薬学部の地域枠のガイダンスを予定。 ・2年生は7月に愛知県の大学見学を実施。8月末に現役大学生、11月に富山県立大学の先生、2月に外部講師の講話の4回実施。3月に合格者に聞く会を予定。 ・3年生は6月に外部講師、8月末に現役大学生により2回の講話等を実施。 ・『進路ガイダンス』、『職業人が語る会』での身近な方の講話は、生徒の進路意識の高揚につながった。 ・大学の先生による模擬講義では、学問や進学に関して刺激を受けた生徒が多かった。 ・外部講師を招いての進学講演会（1、2学年）は、進路意識の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年の担任は常時、面接を希望する生徒に対応できるよう準備をし、相談に来た生徒には十分に対応した。また、担任の手が塞がっているときは3学年主任や進路指導部長で生徒が納得のいくまで話を聞いた上で助言をした。 ・担任による定期的な個別面接を、最低7回（1・2学期各3回、共通テスト後1回）実施し、生徒の進路希望の把握に努め、様々な助言等を行った。10回以上実施した生徒もいる。昨年度と比較して担任面接の頻度を大幅に増やしている。 ・7月、12月、共通テスト後に進路検討会を実施し、生徒の進路希望の共有化を図るとともに、担任が生徒により適切な助言が行えるように意見を出し合った。 ・生徒の進路目標実現のため、分担して個別添削指導（教科、小論文）や面接指導等を実施している。
評 価	A	D
学校関係者の意見	非常に多くの取り組みが実施されており、力を入れていることがわかった。これらの取り組みは素晴らしいので、教職員の負担は大きいとは思いますが引き続き取り組んでもらいたい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路および3学年担当教員は、大学入学共通テスト出願のデジタル化・模試成績のデジタル化への移行期間、学校推薦型選抜、総合型選抜による受験枠の増加など変化への対応に迫られた。次年度以降、外部模試のデジタル化がさらに進むが、紙データ、デジタルデータのよい部分を精選して利用して、今年度より多く生徒の進路実現を支援できるようにしたい。 ・生徒も教員も精一杯の努力をしたが共通テストの難化、私大年内入試の増加と一般入試の定員厳格化等の影響で、予想以上の結果の悪さが受験へ取り組んだ自己肯定感も下げたと思われる。次年度は、年内入試への対応方法、私大一般入試の変化に対応できるよう情報収集に努めたい。 	

重点項目	特別活動（ボランティアと図書）	
重点課題	ボランティア活動の実践 活気ある委員会活動の継続と全校生徒の読書習慣の定着	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア委員会や部活動を中心とした地域施設への訪問・交流等を継続して行い地域貢献に努めたい。また、校内で行っている奉仕活動や花壇の整備も行い、他にできる身近なボランティア活動も考える。 ・図書館を学習の場として、多くの生徒が活用している。また、1、2学年との連携により、FTでの読書時間を企画（1、2年生は毎週1回は読書FT）した結果、貸し出し数が伸びている。 ・この数年間目標としていた生徒による主体的な委員会活動の取組は、委員自身が自覚を持つようになり、委員を継続してくれる生徒が増加している。今後も委員生徒が、学習や部活動を図書委員会の活動とバランスよく実行できる体制を整えたい。 	
達成目標	① “ボランティア活動に参加した” 割合 参加者 90%以上	②生徒の主体的な委員会活動による生徒の読書量(全校生徒の年間貸出総数)の向上 *参考総貸出数 R7.12月時点:879 冊、R6 : 960 冊
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア委員会を中心に、校内でも行える活動を考えつつ、並行して外部からのボランティアの紹介を幅広く行い、参加者を募る。 ・災害募金活動等、全校生徒が情報を得やすい活動から取り組みボランティアについての知識や理解を深める。また年度末に参加延べ人数を調査し、なるべく多数の生徒が参加できるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会での話し合いを通して、読書の在り方と啓蒙活動の推進を図りたい。具体的には、「図書館だより」「店頭購入」「読書会」などで、魅力ある情報の発信力を高め、生徒がより気軽に読書に親しむ機会を多く設けたい。 ・図書部内での話し合いと連携をさらに図り、業務内容の改善に努める。
達成度	“ボランティア活動に参加した” 割合 97.9%	参考総貸出数 R6: 960 冊 R7.12月時点 : 879 冊
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・奉仕活動（学校単独） 通学路や学校周辺の清掃活動を実施。 ・募金活動（昨年から継続実施） 学校祭で赤い羽根共同募金を呼びかけ、集まったお金を団体へ送金したり、能登半島地震で被災された方への募金を呼びかけ、集まったお金を富山県善意銀行に送ったりした。 ・ベルマーク収集は今後行う予定にしている。 ・福岡つくりもんまつりに美術部が作品を製作し、展示参加した ・高岡手をつなぐ育成会主催のスポーツ教室に野球部 17 名、クリスマス会に生徒会・ボランティア委員会の生徒 15 名が参加し、障害を持つ児童生徒と交流を図った。 ・高岡聴覚総合支援学校訪問演奏会を行い、演奏とダンス、手話コーラスで交流を予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主役となり図書委員会の活動が行われている。とりわけ、学校祭恒例の古本市「来ぶらり（らいぶらり）」は、図書委員生徒からの要望により実現し、たくさんの来場者と売り上げがあった。 ・「図書館だより」は、図書委員が中心となって編集している。 ・読み聞かせボランティアは、例年、図書委員以外の生徒からの参加希望がある。大変嬉しいことである。参加者 12 人全員がそろそろ日程での練習時間が思うように取れず、準備日程の調整だけは少し苦労したもの、今回は、大変意欲的な生徒が多かった。オリジナルの幼児向けの読み聞かせ劇に取り組んだ。
評価	A	A
学校関係者の意見	ボランティア活動については、関わった外部団体から高く評価されているということなので、引き続き取り組んでもらいたい。図書室が学習目的で利用する生徒の場となっていることだが、本来設定されている利用状況とは異なるが、生徒相互に良い刺激を与えているので、良いことだと思う。	
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動では、ボランティア委員会を中心に「清掃活動」「地域活動への参加」「募金活動」など積極的にクラスへ投げかけ学校全体で取り組んだ。参加する生徒たちが昨年よりも増えたり募金額も増えたりと成果を感じた。来年度に向けて、全生徒が関心をもってくれるようなピーアールの方法を工夫して理解を深めていきたい。 ・今後は図書委員生徒が意欲的に委員会活動を行うなかで、いかにして読書量を増やす活動に結びつけていけるかを考えていきたい。 	

令和7年度 福岡高等学校アクションプラン —5—

重点項目	その他（実践的英語力の向上と国際理解教育の充実）
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・CAN-DO リストを有効に活用し、英語の4技能をバランス良く伸ばす。 ・語学研修等を通じて英語実践力を高め、国際的な視野を持った人間を育成する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を使った日常会話レベルの対話は、ペアワークやグループ内で出来るようになってきているので、これからは話題に応じて、より深く、より詳しく、自分自身の意見や考えを表現できる段階に移行する必要がある。 ・英国語学研修に関しては、コロナ禍でのオンライン研修を経て、一昨年度に引き続き2年連続で実施することができた。ただ、物価高騰や円安等の国際社会状況により経費がかなり増加したため、コロナ以前よりも期間を短縮して実施せざるを得ない状況となっている。 ・ICT を積極的に導入するとともに、英語コースで培ってきた学習方法や言語実践活動を文系・理系すべての生徒にも行っている。
達成目標	<p>① 実用英語技能検定の取得率</p> <p>2年終了時まで 準2級以上 80%</p> <p>英語コース3年終了時まで 2級以上 90%</p> <p>② GTEC（コミュニケーション能力テスト）の得点</p> <p>1年 690点以上 80%</p> <p>2年英語コース 810点以上 80%</p> <p>3年英語コース 900点以上 70%</p> <p>③ 英国語学研修参加生徒の充実度</p> <p>研修全体を通して“とても良かった”割合 80%以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・CAN-DO リストに基づき、各学年における学習目標を明確に提示する。また、その成果を各種の検定結果を活用して、客観的な指標で測定や検証を行う。 ・研修は国際社会状況の影響を受ける中でも、経費負担を考慮しながらより充実した研修内容となるように企画を検討する。 ・英国語学研修の事前、事後の指導やアンケートを実施し、単発のイベントで終わらせず、更なる学習の動機付けとなるようにする。
達成度	<p>① 準2級以上 72% 2級以上 76%</p> <p>② 1年 82% 2年英語コース 95% 3年英語コース 82%</p> <p>③ 研修全体を通して“とても良かった”割合 100%</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・英語検定は、できるだけ2年1学期までに準2級を取得できるように受検を促している。また、一次合格者全員を対象に二次面接指導を行い、全員が合格できるように支援している。 ・コロナ禍で実施できなかった英国語学研修を2年前より再開した。国際社会状況により研修期間は3/14(土)～3/23(月)の10日間と昨年同様で、コロナ前より短くなっている。選考会議を経て1年生14名、2年生6名の計20名の生徒が参加することとなり、現在事前研修に励んでいる。 ・英国語学研修参加生徒には、17回の事前研修（研究発表を含む）を計画的に実施している。事前研修を通して、参加生徒（団員）の相互理解と連帯の強化を図っている。
評 価	<p>① B</p> <p>② A</p> <p>③ A</p>
学校関係者の意見	<p>英国語学研修が今年も実施されるとのことで、良かった。英語資格取得は、生徒が意欲的に取り組んでいるということで素晴らしいと思う。今後も意欲的に取り組むように、指導してほしい。</p>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・検定の結果を入試で活用できることなど、資格取得のメリットを生徒に伝え、資格取得に積極的に取り組むよう意識付けたい。また資格取得に向けての勉強を通して、着実に英語力を身に付けさせたい。 ・国際社会状況を見極めながら、英国語学研修が少しでも生徒にとって充実した内容となるよう検討を続けていきたい。